

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4072800321		
法人名	特定非営利活動法人 さくら		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	〒809-0032 福岡県中間市中尾三丁目10番25号	TEL	093-246-0260
自己評価作成日	平成 22年 10月 7日	評価結果確定日	平成22年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	〒803-0844 福岡県北九州市小倉北区真鶴2-5-27	TEL	093-582-0294
訪問調査日	平成22年11月9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者が思う事を言葉に出せるように自分らしく生きていける支援、自分で出来る事、自分でしなければいけない事を押し付けではないよう促し、甘えではない個人の意志を尊重して自立支援を行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

北九州市と隣接する中間市の住宅地の一角に、開設8年目のグループホームさくらがある。こだわりの玄関から広がりリビングルームに入ると、利用者と職員の笑いや歌声が聞こえ、一人ひとりが自由で、生き活きと、メリハリの利いた生活を過ごしている様子が窺える。代表の、「利用者と家族が、いつまでも暮らしていける環境づくりを目指し、利用者一人ひとりの能力に合った自立支援で、地域の中で生き活きと豊かに生活していく」という思いを職員が理解し、実践に向けて取り組む姿勢は、家族からの信頼も深いものがある。また、正面に公民館があり、地域の行事や清掃活動等、参加する機会も多く、地域の信頼も厚く、地域密着型グループホームとして、今後活躍が期待される「さくら」である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに掲示している。常に理念を意識し、日常業務を行っている。	利用者が第二の我が家として自分らしく生活していけるよう見守っていくこと、日々の暮らしの中で地域と共に歩み、心豊かな町作りに寄与し地域福祉に貢献するという理念を掲げ、職員は常に理念を意識しながら実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、町内行事に参加し地域の方との交流に努めている。	自治会に加入し、利用者と職員と一緒に盆踊り、清掃などの行事に参加している。また、ホームのカラオケ大会に地域の方の参加を呼びかけ、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営促進会議の際や、町内会行事の際に理解や支援方法を地域の方に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、ホームでの行事、利用者の状況、協力医の報告、家族に意見や、参加者の方との意見交換を行っている。地域の方の出席もある。	会議は2ヶ月毎に開催し、家族、町内会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、管理者、ホーム職員が参加し、ホームの現状、行事、提携医(内科、歯科)の状況等を報告し、活発な意見交換の場となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際や、介護保険課の方に、相談にのっていただいたり連絡や確認をとりながら、サービスの質の向上にも取り組んでいる。	市職員、地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時にはもちろん、その他の機会にも連絡を密に取り、情報を共有し、協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は行わず日々話し合いながら支援を行いつつ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルに基づいて、日常のケアの中で振り返り、管理者と職員で気づきを伝えあいながら共有認識を図っている。また、見守りを徹底し、利用者の様子を察知することで、鍵をかけない暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	具体的な研修を行っていないが日々、職員同士話し合いながら注意、防止に努めている。今後は研修機会を持ち質の向上に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はおられないが、以前利用されている方がおり、職員間で情報を共有していた。新しい職員が多く今後は研修機会を持ち質の向上に努めたい。	以前、制度の利用者が入居していたため、管理者、職員は実践の中で、制度について学ぶ機会があり、理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に本人、家族と面談を行い、不安や疑問点を尋ねており、契約時に説明を行い納得していただき同意していただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や、家族の面会時に意見・不満・苦情・要望を出していただけるような場を設け、意見を出しやすいよう努めている。また、玄関に投書箱を置き、いつでも運営に反映できるようにしている。	玄関に投書箱を設置し、家族の訪問時には声をかけ、コミュニケーションに努めるなどして、家族の意見、要望を聴き取る努力をしている。また、運営推進会議に家族の参加があり、意見、要望を表出する場となっている。	ホーム便りを復活し、家族に利用者の状態や日々の暮らしぶりを報告する事と、家族会を作って、家族同士の連携を深めることが望まれる。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営面は話す事がないか職員の意見を聞きながら、ホームを安らぎのある場所に行っている。	ケアマネージャーが中心となって、職員から意見や要望、提案を聴き取り、それを管理者に伝え、反映できるよう努めている。	管理者、職員が一同に介して運営に関する意見、提案を出し合う場を設け、また、その場が意見を出しやすい雰囲気になる様に努め、出された意見はホームの運営に反映させていくことが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望の休みや有休消化等、本人の希望に添い職場環境づくりができています。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用には、性別や年齢等を理由に採用対象から排除する事はない。研修の参加にも、向上心を持って働けるような勤務調整に柔軟に対応している。職員が自分のための休暇や社会参加がしやすいように配慮している。	職員の募集、採用においては、性別、年齢は問わず、優しい人を求めている。また、事業所で働く職員については、休憩室、休憩時間を設け、働きやすい環境作りに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者を尊重する為に人権教育、啓発活動に取り組んでいる。管理者が研修に参加し、職員と内容についてミーティングで話あっている。	人権に関する外部研修に管理者が参加し、ミーティングの中で伝達研修を行うことで職員間の理解を深め、利用者の人権を尊重するケアを実践している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、計画担当者は包括主催の研修等に参加しているが、職員の入れ替わりがあり職員を育てる取り組みや研修参加の機会確保まではできていないが引継ぎノート等、現場において取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、管理者は研修会等を通じて同業者との交流や情報交換等をおこなっているが、職員同士の勉強会や交流会までには至っていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行い、家族や担当者に今までの生活について情報収集を行い、本人の要望を聞き、本人が望んでいる事や、不安を解消出来るよう関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の話を十分に聞き、家族の思いや考えを把握した上でグループホームの内容について分かりやすく説明を行い、十分に理解してもらい安心して入居してもらえるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設を見学に来られた時や入所見込みに来られた時に本人・過族の実情や要望を聞き、必要に応じて他のサービス利用も含めて話をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意とする事に対しては教えて頂きながら入居者から学ぶべき事は多いに学び、人生の先輩として尊敬の念を持ちながら日々の生活を通じてお互いに対する理解を深め、互いに支えあう関係が築けるように努めている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の現状や思いを把握した上で入居者に対する情報交換を密に行いながら、家族と共に支えていく関係作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常的に会話をする中で、また日常のケアの中で本人の意向や思いを聞いたり、家族からも聞き取りを行い、一人ひとりの暮らし方の希望の把握に努めている。	地域に暮らす馴染みの知人、友人の訪問がある。また、利用者の話を聴きながら、馴染みの場所へ出かけるなど、地域の中でこれまでの関係が途切れることのないよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	友人・知人の訪問があり、大変喜ばれる。また昔行ったことのある場所へドライブに出掛ける等して極力馴染みの場所や人との関係が途切れないように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても継続的に面会に行ったり、家族に連絡を取って現在の状況を把握したり等本人だけでなく家族共に関係を続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の都合を優先せず、利用者一人ひとりのペースを大切に、その日、その時の希望や思いを出来る限り優先し、希望に添った支援ができるように柔軟に対応している。	入居年数の長い利用者が多く、管理者はこれまでの関わりの中で、利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、それを、全職員で共有し、家族と協力しながら本人の視点にたったケアに繋げている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人を理解する為に入居前に生活歴や以前の生活の仕方及び生活環境の把握を目的に本人・家族との話し合う時間を十分に設けるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後1~2週間は本人の生活リズムを把握する為にタイムスケジュールを記録するようにしている。また日常生活動作を通じて心身機能の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングでそれぞれの職員が課題やケアのあり方について意見を出し合い、家族来訪時には家族から意見を聞き取り、介護計画作成担当者がそれらを反映した介護計画を作成している。	家族の思いや意見を大切にしながら、担当者会議で関係者が話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画の見直しを3ヶ月毎にしていことが望まれる。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の期間に応じて見直すと共に、本人の状況変化に応じてその都度臨機応変に対応できるように本人・家族・職員との話し合いは常に持ちながら必要時は早急に介護計画の変化に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の現状を把握できるように本人・家族・職員間での話し合いの機会を大切にしその時々状況に応じて柔軟対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回ボランティアとしてカラオケ教室の講師を招き、実施している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望されるかかりつけ医への受診が受けられるように支援している。それ以外の定期受診は提携医の受診をお願いしている。	かかりつけ医の受診については、家族にお願いしているが、やむおえない場合は、管理者が同行支援している。また、緊急の場合と、月に1度の定期健診はホームの提携医にお願いし、利用者が安心して、適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医のいる病院の看護師と入居者の状態について報告・相談を行い、支援を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者がいる場合はお見舞いを兼ねてその都度現状の状況把握に努めている。また家族・入院先に出向き連携をとっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルは行わないと契約時に話し合い、承諾を頂いている。食事の自立ができなくなった場合は、退居をお願いしている。	重度化に伴い医療行為が必要になった場合は退去をお願いする旨の説明を入居時に行い、承諾して頂き、本人、家族、関係者がこの方針を共有している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会などを通じて緊急時の対応について学ぶ機会を持つようになっている。また日々職員同士話し合いながら注意、防止に努めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者職員による避難訓練を行っている。22年は4月に1回行い、10月に2回目を行う予定である。火災時の連絡体制や役割分担はA,B,C,D勤務者で行っている。	定期的に避難訓練を行い、連絡体制の確認、夜間を想定した訓練を実施している。今月末には消防署の指導のもと、地域の方の参加もお願いして避難訓練を行う予定である。また、災害時に備えての飲料水、非常食の備蓄も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損なうような声かけは行われていない。記録等の個人情報は事務所に保管されており、情報の漏洩がないように配慮されている。	利用者を人生の先輩として敬い、尊重し、毎日の暮らしの中で、本人の誇りやプライドが傷つかないようにさりげない言葉かけや対応をしている。また、個人ファイルなど、個人情報の取り扱いについても配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事の参加の有無やドライブや散歩等の外出の誘いの際など何かが行動する際は声掛けにより本人の意思を尋ね、可能な限り本人の意思を尊重した支援を行っている。また本人要望等に対してはその都度状況を見ながら出来る限り要望に添えるように支援できるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその日の気分や状態を考慮し起床時間、就寝時間、食事時間、入浴等ライフスタイルに関しては無理強いすることなく可能な限り本人の意思を尊重して臨機応変に対応するように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服に関しては季節、ご希望に合わせて調整、着用するように支援している。また理容・美容に関しては入居者のご希望に応じて業者に御願いしたり、家族付き添いの下、外出の折に昔から馴染みの店を利用されたりする等入居者一人ひとりの自己決定を尊重し、支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら、食事の下準備や下膳等職員と会話を交わしながら一緒に行っている。食事は必ず職員二人が見守りながら支援をしている。	家族が、朝、昼、夜と食事介助に来訪し、利用者に寄り添い、他の利用者とも会話をしながらの食事風景は穏やかで温かい光景である。	利用者と職員が同じテーブルで、会話をし、楽しみながら食事を一緒にする取り組みが望まれる。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量及び水分摂取量は各自記録しており、また水分をあまり摂取されようとならない入居者に対しては職員が気をつけながら水分を摂取してもらうように考慮している。食欲不振時は提携医に相談しながらエンシュアキッド等を使用しながら対応に努めている。毎月初めに体重を測り、健康管理の目安にもしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行い、拒否される方には無理強いすることなく柔軟に対応しながら口腔ケアに努めている。また声掛け・介助必要な場合及び義歯の方にはその都度対応を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄のパターンを把握し、声かけにて誘導を行い、できる事できない事の支援を行っている。	排泄と水分のチェック表にて、利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、利用者の様子を見守りながら、個々の身体機能に応じて、誘導、介助を行い、排泄の自立に向けて支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養バランスの摂れた食事及び日々取り入れている体操や定期的な水分摂取により便秘防止に努めている。また便秘がちな入居者に対しては提携医に相談し、排便をコントロールする為の本人の排便状況を確認しながら便秘薬の調整を行い対応に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月、火、木、金と週4日入浴日を設定し、入浴設定日以外に入浴の希望がある場合は希望に添い、入浴支援を行う。	入浴日は週4日(月、火、木、金)のうち希望に応じて週2回は入っていただくよう支援している。拒否される利用者については、無理強いることなく、言葉かけや対応の工夫をしながら支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はフロアの消灯時間(20時)に設定しているがご自分の居室に戻られてからの過ごし方は自由に過ごして頂いている(ただし他の入居者に迷惑をかけないように過ごしてもらう事を前提に対応している)。また日中に関しても本人の意思を尊重し、自由に居室にて休まれるように配慮を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方されている処方箋をもとに個々の薬の内容把握に努めている。また薬の種類・時間・量等が変わった場合はすぐに申し送りを行い、伝達間違いのないように努めている。また経過についてはその都度提携医に報告・指示を受けている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな入居者にはカラオケ教室の際に過ごしてもらえようように支援する。またタオルたたみ等のお手伝いを他者と協力して行ってもらったり、花好きな入居者には一緒に草抜きや水まき等を行ったり本人の趣味を活かし、また可能な限り自分で出来る事は自力で行ってもらえるように支援する事で少しでも自立した生活が過ごせるように努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望がある時は、希望に添って外出の同行をしている。また季節によって花見やレクリエーションを計画し、戸外に出掛けられるように支援している。	利用者一人ひとりのその日の体調や希望にそって、散歩に出かけたり、ホームの玄関先の花壇の前に置かれたベンチに腰かけ外気浴が出来るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者によっては御自分で金銭を管理されている方も居られ、外出時やショッピングの際にご自分で好きな物を買われたりしている。また金銭を管理していない入居者に関しては必要時は家族確認のもと柔軟に対応できるように努めている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が希望すれば電話番号のメモを書き渡したり、代わりに電話番号を押してあげるという支援を行っている。現在は手紙のやり取りをしている入居者はいない。電話時は本人のプライバシー保護に配慮するように努めている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間部分はゆったりと広めに取られており、音や光に工夫がなされ、居心地良く生活ができるようにしている。	ホームの玄関周りは綺麗に整備され、ベンチ、花壇の季節の花が来訪者を温かく迎えてくれる。中に入ると、掃除が行き届き清潔で、共用部分は広く、天井は高く天窓からの自然の光で明るく、壁には利用者の折り紙や塗り絵の作品が飾られ、家庭的な雰囲気である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにおいて各自自分の好きな席に座られてテレビを観られたり、新聞を読まれたり、他者と会話されたり等各自、思い思いに過ごさせている。また自由に動くことの出来るスペースが確保されているので共有空間においても一人になれる空間は確保出来ている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の好みのタンスやテーブル、椅子等思い思いの物が持ち込まれ、家族の写真や馴染みのものが飾られ本人が居心地良く過ごせるように工夫されている。	居室は明るく清潔で、利用者、家族と相談しながら持ち込まれた馴染みの家具や好みの小物で、利用者が落ち着いて居心地良く暮らせるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差や家具の配置には注意し、常に入居者に妨げにならないように配慮されている。また転倒防止の為に居室内には手摺を各所に取り付けている。また、車椅子利用の方には寝たきりにならない為に可動域や拘縮に注意しながら対応する等入居者の安全と自立した生活が送れるように努めている。		